

ブロッコリー管理情報 No.1

令和7年6月

京築普及指導センター

J A福岡京築

～ブロッコリー栽培のポイント～

- ① 適期定植：計画的な作業で定植遅れ防止
- ② 雑草対策：定植前後の除草剤で雑草発生防止
- ③ 適期施肥：一発肥料または緩効性肥料の活用で肥料切れ防止

1. ほ場準備

- ほ場は排水良好で日当たりの良い場所を選びましょう。どうしても排水の悪いほ場に作付けする場合、サブソイラ等による耕盤破碎を検討しましょう。
- 前作を作らず休ませていたほ場は雑草発生量が多く、畝立て時の耕起で除草しきれずに定植後に繁茂して、ブロッコリー定植後の生育を抑制する恐れがあります。耕起前にラウンドアップマックスロードを雑草茎葉散布し、ほ場の雑草量を減らしましょう。

<ラウンドアップマックスロード使用方法>

薬剤	使用時期	使用方法	使用回数
ラウンドアップマックスロード	耕起前まで (雑草生育期)	10a あたり薬剤 200～500ml を 水 50～100L に溶かして雑草茎葉散布	1回まで

- 定植 2 週間前までに土改材を投入し、荒起こしましょう。
- 根こぶ病発生ほ場は土壌分析を行い、石灰資材の投入量を調整しましょう（目標 pH 6.5 前後）。
- 定植 2～3 日前までに基肥を施用します。その後、害虫対策としてダイアジノン粒剤5を全面土壌混和（4～6kg/10a、コガネムシ類幼虫）してから畝立てを行いましょう。根こぶ病発生ほ場は、フロンサイド SC も全面散布してから土壌混和し、畝立てを行いましょう。
- 排水の悪いほ場では、高畝、溝切り等による表面排水などの対策を徹底しましょう。

<土改材・基肥体系（例）>

		資材	施用量 (kg/10a)	N	P	K
土改材		牛ふん堆肥	2,000			
		炭酸苦土石灰 (ミネGスーパー等石灰資材)	100			
基肥	パターン①	ブロッコリー・キャベツ一発肥料 (25-5-7)	100	25	5	7
		FTE	4			
	パターン②	園芸化成250 (12-15-10)	100	12	15	10
		FTE	4			

パターン①：1月どり作型までを対象とした追肥不要な施肥体系。ただし、天候により肥効が早く切れることがある。

パターン②：追肥施用タイプ。2月以降の作型はパターン②で栽培すること。

☆追肥時期（定植後2週間以降）に他品目の作業で忙しいことが予想される場合は、パターン①を使用しましょう。

※水稻後に作付けする場合は基肥を1～2割増しさせましょう。

＜フロンサイド SC 使用方法＞

薬剤	使用時期	使用方法	使用回数
フロンサイド SC	定植前	10a あたり薬剤 500ml を水 100～200L に溶かして全面散布土壌混和	1 回まで

・畝立て時、除草剤（全面土壌散布剤）の効果安定+苗の活着促進のため、土塊が小さくなるよう細かく砕土しましょう。

*土塊を小さくするには、適湿状態（土を握っても固まらない、長靴に土が付かない）でほ場を鋤く回数を増やす、ロータリ回転数を上げることが有効。

2. 定植密度

畝幅	条間	株間	10a 当たり	128穴トレイ(1.1倍)
140cm	60cm	35cm	4080株	35箱
	60cm	40cm	3570株	31箱
150cm	60cm	35cm	3810株	33箱
	60cm	40cm	3330株	29箱
160cm	60cm	35cm	3570株	31箱
	60cm	40cm	3130株	27箱

注) 移植機を使用する場合は、畝幅を車幅に合わせる。培土に管理機を使用する場合は、条間を広める。

3. 定植

・JA共同育苗で、アオムシ等害虫の対策として、育苗時にミネクトデュオ粒剤を施用(40g/1トレイ)するので、定植前の殺虫剤のかん注は不要です。

※ただし、定植が大幅に遅れた場合は、ミネクトデュオ粒剤の効果が落ちている可能性があるため、別途、防除が必要になります。

・個人育苗の場合は、定植前に、かん注処理できる薬剤をセルトレイにかん注しましょう

・根こぶ病発生ほ場は、定植前にオラクル顆粒水和剤をセルトレイにかん注しましょう。

＜オラクル顆粒水和剤使用方法＞

薬剤	使用時期	使用方法	使用回数
オラクル顆粒水和剤	定植前	薬剤を 200～500 倍に希釈して、セルトレイ 1 箱あたり 500mL かん注	1 回まで

- 定植苗は本葉3～4枚の若苗とし、定植当日はセル苗を抜けやすくするために十分かん水しましょう。また、定植直後は、活着促進のためかん水をし、活着までに乾燥が続く場合は、畝間かん水を行いましょ。
- 定植後1か月間の生育は花蕾の品質に大きく影響します。**定植前後に必ず全面土壌散布タイプの除草剤を雑草発生前に散布し、雑草を発生させないようにしましょう(下表参照)。**
- 定植後のコオロギ類対策(【写真】参照)として、**アクセルバイト(3～6kg/10a)を株元散布**しましょう。

※アクセルバイトとダイアジノン粒剤5は使用方法が異なるため、予めご注意ください!



【写真】コオロギ芯葉食害

＜定植前後の除草剤(全面土壌散布)事例(いずれか1剤を使用、全剤使用は1回まで)＞

使用時期	農薬名	特徴
定植前	トレファノサイド粒剤2.5	<ul style="list-style-type: none"> 10aあたり4～6kg使用。 イネ科雑草に高い効果。 イネ科雑草に比べ広葉雑草に対してはやや効果が劣るので、イネ科一年生雑草の優先するほ場で効果的。 除草効果安定のため、砂質土壌では少なめの薬量、重粘土質土壌では多めの薬量で使用する。(※登録範囲内の薬量を遵守)
	クレマート乳剤	<ul style="list-style-type: none"> 10aあたり薬剤200mlを100～150Lの水に溶かして使用。 イネ科雑草およびアブラナ科・ナデシコ等の多くの広葉雑草に高い効果。 多年生雑草、キク科雑草、ツククサには効果が劣るので、これらが優占するほ場での使用は避ける。 砂質土壌では薬害を生じやすいので、少なめの薬量を使用する。(※登録範囲内の薬量を遵守)
定植後	フィールドスターP乳剤	<ul style="list-style-type: none"> 10aあたり薬剤50～75mlを100Lの水に溶かして使用。 使用時期は収穫30日前まで。 一年生イネ科雑草、カヤツリグサ、ヒユ類、スベリヒユに高い効果。 シロザ、タデ類、アブラナ科などの一部広葉雑草には効果が劣るので、これらが優占するほ場での使用は避ける。 砂土では使用しない。
	ラッソー乳剤	<ul style="list-style-type: none"> 10aあたり薬剤150～200mlを100Lの水に溶かして使用。 使用時期は収穫60日前まで。 イネ科雑草に高い効果。 タデ科、アカザ科などの広葉雑草には効果が劣るので、イネ科雑草優占ほ場で使用。 除草効果安定のため、粘土質土壌では多めの薬量で使用する。(※登録範囲内の薬量を遵守)
	アグロマックス水和剤	<ul style="list-style-type: none"> 10aあたり薬剤200～300gを100Lの水に溶かして使用。 使用時期は定植14日後まで。 イネ科雑草および広葉雑草まで幅広い雑草に効果あり。 キク科、カヤツリグサ科には効果が劣るので、これらが優占するほ場での使用は避ける。 展着剤の使用は避ける。 砂土や礫を含む土壌では使用しない。

※ほ場が過乾燥または過湿時の使用は避ける。散布後に降雨が予想される場合も使用を避ける(薬害防止および除草効果安定のため)。

※例年ほ場に発生する雑草種に合わせた剤を選択する。

(参考：各種雑草発生様相事例)



イヌタデ (イネ科)



トゲミノキツネノボタン
(キンポウゲ科)



ハキダメギク (キク科)



オオアレチノギク(キク科)



コアカザ (アカザ科)



スズメノカタビラ(イネ科)

4. 追肥・中耕・土寄せ

- 1回目の追肥は、定植 15～20 日後に条間に施用し、**除草を兼ねて条間を中耕・土寄せ**する。
 - 2回目の追肥は、定植 40～50 日後に畝肩に施用し、畝溝を中耕・土寄せする。
- ☆追肥回数を減らしたい（労力を削減したい）時は、追肥に緩効性肥料（麦追肥名人など）を使いましょう。ただし、天候により肥効が早く切れることがあります。**
- 2～3月どり作型（晩生品種）は、頂花蕾の出蕾期（頂花蕾がやっと確認できるくらい）に、3回目の追肥を畝肩に施用しましょう。

※上記はあくまで目安です。降雨、生育に応じて追肥回数を調整しましょう。

<追肥体系（例）>

対象作型	パターン	資材名	追肥①	追肥②
11～1月どり作型	即効性パターン	NK化成2号 (16-0-16)	40	20
	緩効性パターン	麦追肥名人 (20-0-13)	50	

緩効性パターンは
追肥1回分
省力可能！

対象作型	パターン	資材	追肥①	追肥②	追肥③
2～3月どり作型 (晩生品種)	即効性パターン	NK化成2号 (16-0-16)	40	20	
		燐硝安加里S646 (16-4-16)			20
	緩効性パターン	NK化成2号 (16-0-16)	40		
		麦追肥名人 (20-0-13)		40	

※本管理資料の農薬情報は 2025 年 5 月 14 日
登録反映時点の情報で確認。

※農薬使用時はラベルの情報を確認し、記載情報を
守って使用すること。

STOP 熱中症事故！



法改正で熱中症対策が
義務化されました。

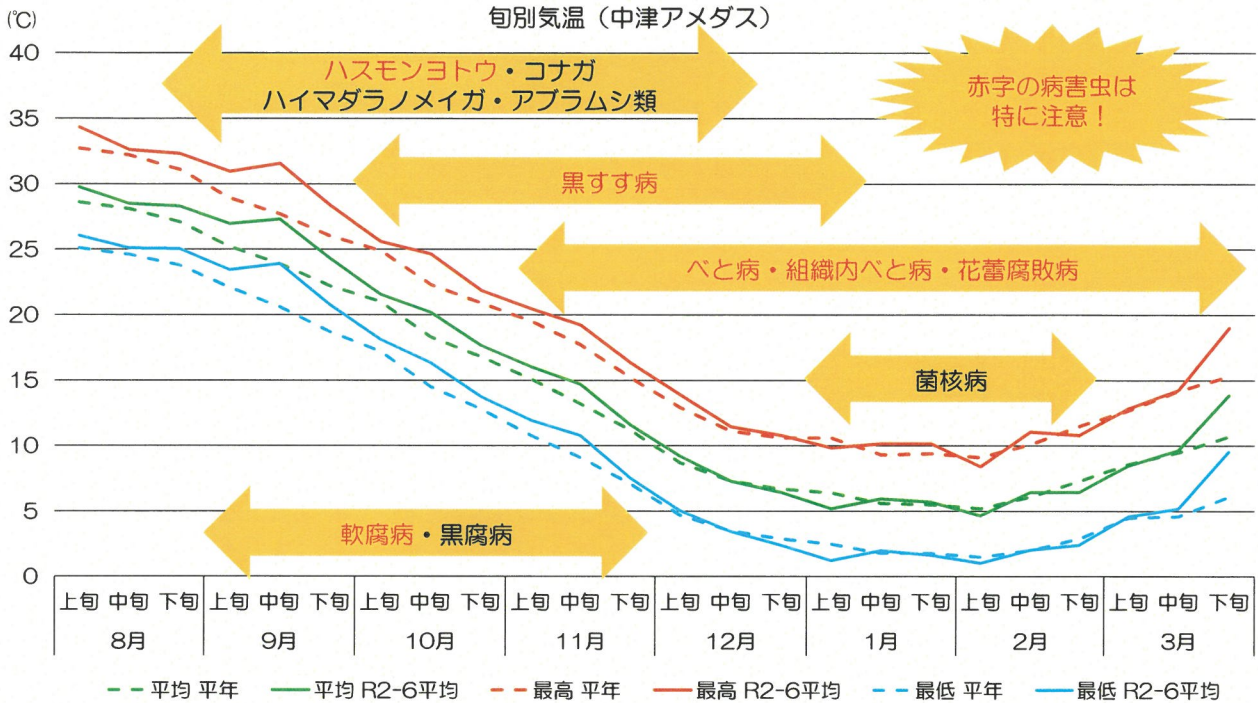
ブロッコリー病害虫防除対策資料

R7.9月 JA福岡京築・京築普及指導センター

～病害虫防除のポイント～

- ①計画的な防除で病害を発生させない、害虫は初発で抑える
- ②抵抗性発達防止のため、同一RACの農薬は連用しない
- ③雑草は病害虫の発生源となるので、除草剤で駆除する

- 1 主な病害虫発生様相：およその発生時期を把握して計画的に防除しましょう。
*発生時期は天候によって変わるため注意。



- 2 防除計画例：以下を参考に計画的に防除しましょう。

時期	殺菌剤	べと病	黒すす病	菌核病	黒腐病	軟腐病	花蕾腐敗病	希釈倍数	使用時期(収穫前)	F R A C	殺虫剤	ヨトモン	コナガ	ハイマダラノメイガ	アブラムシ類	希釈倍数	使用時期(収穫前)	I R A C
定植 2～3週後	シグナムWDG	●	●	●				べと病 1500～2000倍 他 1500倍	7日前まで	11, 7	トルネードエースDF	●	●			2000倍	14日前まで	22A
											または モスピラン顆粒水溶剤		●		●	2000倍	14日前まで	4A
定植 4～6週後	コサイド3000				●	●	●	花蕾腐敗病 1000倍 他 2000倍	—	M01	プレオフロアブル	●	●			1000倍	7日前まで	UN*
											または コルト顆粒水和剤				●	4000倍	前日まで	9(B)
出蕾前	ランマンフロアブル	●						2000倍	3日前まで	21	グレーシア乳剤	●	●	●		2000～3000倍	7日前まで	30
											または ウララDF				●	2000～3000倍	前日まで	29

*使用方法は全て散布、殺虫剤は発生害虫に応じてどちらか1剤を選択

*コサイド3000の黒腐病・軟腐病は「野菜類」での登録、シグナムWDG・グレーシア乳剤は「はなやさい類」での登録

☆ブロッコリーは薬液をはじきやすいので、展着剤を添加しましょう。

例：ブレイクスルー 5,000～10,000倍希釈 泡立ち防止のため、薬液調製後に添加

3 補正防除：病害が発生、または、害虫が多発した場合、以下の農薬でローテーション防除を実施しましょう。

分類	農薬名	適用病害虫	使用時期 (収穫前)	希釈倍数	使用回数	RAC
殺菌	アミスター20フロアブル	べと病、黒すす病、菌核病	前日まで	2000倍	3回以内	F:11
	アフェットフロアブル	黒すす病、菌核病	前日まで	2000倍	3回以内	F:7
	レーバフロアブル	べと病	7日前まで	2000倍	2回以内	F:40
	トップジンM水和剤	菌核病	14日前まで	2000倍	2回以内	F:1
	スターナ水和剤	軟腐病、花蕾腐敗病	14日前まで	2000倍	2回以内	F:31
殺虫	アフーム乳剤	ハスモンヨトウ	3日前まで	2000倍	3回以内	I:6
		コナガ		1000~2000倍		
	ディアナSC	ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガ、コナガ	前日まで	2500~5000倍	2回以内	I:5
	ヨーバルフロアブル	ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガ、コナガ、アブラムシ類	前日まで	2500~5000倍	3回以内	I:28
フィールドマストフロアブル	ハスモンヨトウ、ハイマダラノメイガ、コナガ	3日前まで	4000倍	2回以内	I:4E	

*使用方法は全て散布、アフェットフロアブル・フィールドマストフロアブルは「はなやさい類」での登録

4 雑草対策：雑草が繁茂すると風通しが悪くなったり、害虫の隠れ家になったりするため、病害虫のもとになります。茎葉散布の除草剤を使用して、駆除しましょう。

<薬剤事例>

農薬 名称	適用 雑草名	使用時期	10アールあたり 使用量		使用 方法	使用 回数
			薬量 (ml/10a)	希釈水量 (ℓ/10a)		
バスタ 液剤	一年生 雑草	収穫前日まで (雑草生育期畦間処理)	300~ 500	100~ 150	雑草 茎葉 散布	2回 以内

*バスタ液剤の特徴・注意点

- ・茎葉散布剤（薬液がかかった植物だけを枯らす）の非選択性除草剤（雑草だけでなく作物も枯らす）→作物にかからないよう注意！
飛散防止カバー使用！
- ・散布後2~5日で効果が発現し、7~14日後に効果が完成。
- ・雑草が大きくなりすぎると効果が低下するので、草丈15~30cmを目安に散布。
- ・散布後6時間以内の降雨は効果を減らすことがあるため、天候に注意して散布。



飛散防止カバー例
(出典：ヤマホ工業HP)



5 病害虫の特徴：適切な農薬の選択のため把握しておきましょう。

病害虫名	特徴
<p>べと病・組織内べと病</p>  <p>べと（葉表） べと（葉裏） 組織内べと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、気温が下がってくる11月頃から発生。 ・葉に黄色く角ばった不正形の病斑が発生し、その後、葉裏に霜状のカビが生じる。下葉から発生。（べと病） ・花蕾に発生すると内部が褐変する。（組織内べと病） ・肥切れは発生を助長するので、適期追肥を徹底する。 ・※過剰施肥は病害を助長するので厳禁。 ・病原菌の侵入時期である10～11月の予防防除が効果的。
<p>黒すす病</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・年内が暖かく、降雨が多いと発生しやすい。 ・葉に褐色輪紋状の病斑が発生する。 ・花蕾は黒色の小斑点が生じた後に拡大、黒褐色に腐敗し、周囲の蕾が黄変する。
<p>菌核病</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・地際部に白色の菌糸およびネズミの糞状の黒色菌核が発生し、その後、株が枯れる。 ・発病株は感染源となるため、抜き取ってからのほ場外処分が望ましい。 ・株元に雑草が繁茂しているなど、多湿条件で発生しやすい。
<p>黒腐病</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・年内に降雨が多く、風の強い日が多いと多発しやすい。 ・葉のふちからV字状に黄変する。激発すると下葉から枯れる。花蕾の黒変を伴うこともある。下葉から発生。 ・虫害痕からも感染するため、害虫防除も徹底する。
<p>軟腐病・花蕾腐敗病</p>  <p>軟腐病 出典：タキイ 種苗HP</p> <p>花蕾腐敗病 出典：朝日アグリ リアHP</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・花蕾が腐敗する。出蕾後に降雨が多かったり、霜が降りたりすると発生しやすい。 ・出蕾前後の予防防除が効果的。 ・※銅剤（コサイド3000など）は、出蕾後は薬害の恐れがあるため使用しない。 ・※出蕾後に防除する際は使用時期（収穫前日数）に注意。
<p>ハスモンヨトウ</p>  <p>卵塊</p> <p>若齢幼虫 体長1cm以内</p> <p>中齢幼虫</p> <p>老齢幼虫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・葉裏に数100個の卵（卵塊）を産みつける。 ・ふ化後、しばらくは群れで葉を食害するため、いっきに葉を食べつくしてしまう。花蕾にも侵入する。 ・卵塊やふ化直後の幼虫を見つけたら、葉を取り除き処分する。 ・中齢以降になると薬剤が効きにくくなるため、早期の防除が重要。
<p>コナガ</p>  <p>被害株</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1cm前後の小さなアオムシ状の虫。 ・葉裏に寄生して、表皮を残して食害する。
<p>ハイマダラノメイガ</p>  <p>成長点付近の食害</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成長点を食害するため、幼苗期に食害されると株が芯止まりする。 ・成長点付近に潜むため、発見しづらい。
<p>アブラムシ類</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・茎葉、成長点に寄生する。 ・収穫期間近くに多発すると、花蕾へ混入するため注意。

病害虫の発生を抑え、品質・収穫率を高めていきましょう！
（本資料の農薬登録情報は2025年7月23日登録反映時点で確認）

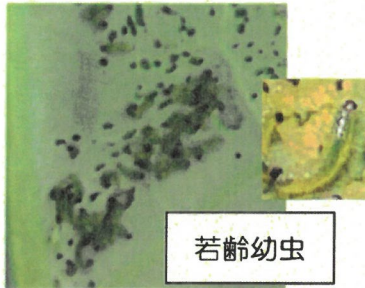
ブロッコリー ハスモンヨトウヨトウ注意報

令和7年10月
JA福岡京築・京築普及指導センター

ブロッコリーでハスモンヨトウによる食害が散見されます。
気温が低下して発生が収まるまで（目安：11月上旬）、
病害の予防と併せて1～2週間ごとの防除を徹底しましょう。



卵塊



若齢幼虫



老齢幼虫

図 生育ステージ別のハスモンヨトウ

表 防除事例（使用方法は全て散布）＊登録内容は2025年8月失効反映時点の情報で確認

	農薬名	RAC	適用病害虫	使用時期 (収穫前日数)	希釈倍数	使用 回数
1回目	グレーシア乳剤	I:30	ハスモンヨトウ、コナガ、 ハイマダラノメイガ	7日前まで	2000～3000倍	2回 以内
	シグナムWDG	F:11,7	べと病、黒すす病、菌核病	7日前まで	べと病1500～2000倍 他1500倍	2回 以内
2回目	ディアナSC	I:5	ハスモンヨトウ、コナガ、 ハイマダラノメイガ	前日まで	2500～5000倍	2回 以内
	コサイド3000	F:M01	花蕾腐敗病、軟腐病、黒腐病	—	花蕾腐敗病1000倍 他2000倍	—
3回目	フィールドマスト フロアブル	I:4E	ハスモンヨトウ、コナガ、 ハイマダラノメイガ	3日前まで	4000倍	2回 以内
	ランマン フロアブル	F:21	べと病	3日前まで	2000倍	3回 以内
4回目 (出蕾前)	ヨーバル フロアブル	I:28	ハスモンヨトウ、コナガ、 ハイマダラノメイガ、 アブラムシ類	前日まで	2500～5000倍	3回 以内
	コサイド3000	F:M01	花蕾腐敗病、軟腐病、黒腐病	—	花蕾腐敗病1000倍 他2000倍	—

※グレーシア乳剤、フィールドマストフロアブル、シグナムWDGは「はなやさい類」で登録

※コサイド3000は薬害防止のため出蕾後の使用は避ける。また、軟腐病、黒腐病での使用は「野菜類」で登録